

教育学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学部では、人間の成長や発達を、人と人の関係および人と社会との関係の中で捉える、人間の科学としての教育学を追求することを理念とし、社会の様々な領域で教育の実践と改善に携わる人材を育成するとともに、教育を通じて平和な世界の実現に寄与する人材を養成することを教育目的とします。この目的は、（１）人間の科学を担うにふさわしい総合的な知識と自主的な研究態度の形成、（２）社会の平和と永続的発展に貢献する人格の基礎の形成、（３）人間の科学を開拓するための専門的研究方法の獲得、（４）実践的教育課題の解決に資する総合的研究能力の育成という具体的な教育目標の達成によって実現され、全学共通の「全学教育科目」と体系的に配置された「専門科目」をもって、４年間の学士課程における教育課程を編成します。

・主に１年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。

また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。

・２年次以降では、教育学に関する専門性を深めるため、専門科目を開講します。専門科目では、本学部の教育目的である、人間の成長や発達を、人と人の関係および人と社会との関係の中で捉える、人間の科学としての教育学を追求することを目指した教育課程を編成します。

・２年次第１学期から、教育学の基礎的知識、基本的視座を獲得できるよう、「教育学概説」を専門科目（必修）として配置します。また、「教育学基礎演習」を必修科目として配置し、少人数教育によって自主的な研究態度を養います。

・これらに加えて、教育基礎論、教育社会科学、教育心理学、健康体育学等の各専門科目（選択必修）を配置し、これらを幅広く履修することによって、人間の科学としての教育学を担うにふさわしい総合的な知識を修得するものとします。

・２年次第２学期から、少人数形式の「専門演習」を必修科目として配置し、人間の科学を開拓するための専門的研究方法を身につけ、実践的教育課題の解決に資する総合的能力を養い、４年次には本学部での学修の集大成としての卒業論文を作成するものとします。

【学修成果の評価の方針】

・2年次以降の専門科目では、授業科目の性質に照らして適切な評価方法により成績評価を行うことを成績評価基準のガイドラインにおいて定めています。

I. 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の「学修成果の質」（達成度）に応じて行うこととする。
2. 当該科目が養成しようとする知識や技能を備えているかの具体的な「到達目標」を定め、達成度に応じて評価することとし、成績分布の目安は示さない。
3. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されており、当該「到達目標」に基づく成績評価の結果を、学期ごとに学部教務委員会で検証し、必要に応じて担当教員に「到達目標」の再検討を依頼するとともに、その結果を学部教授会に報告する。

II. 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行う。
2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはできない。
3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が授業科目の性質等を勘案して適切に定める。